



子供が自立し みんなの活躍で創り上げる学校



主体性

自律性

協働性

校長 島 章人

無病息災を願う! (どんどや)

「どんどや」は、他の地方では、「どんど焼き」などとも呼ばれているようですが、古くは平安時代まで歴史をさかのぼることができます。始まりは神事の一つだったのでしょうけど、昔は田んぼでどんどやを組み上げ、わらなどを燃やし、燃えた後の灰も田んぼに利用していたことを考えれば、おそらく農耕文化の一つとして広まったのだろうと想像されます。無病息災、五穀豊穣の願いが天まで届くようにとの思いを込めたのでしょうか。



五穀豊穣、家内安全を願い、近所の家や建物に行き、「もぐら打ち」をしました。

万田小校区でも、先月2つの地区協議会でそれぞれどんどやが行われました。バチバチと音を立てながら炎が立ち上ると、見ている人からも歓声が上がります。

炎が風になびき、煙が天高く上る。竹がパン・パンと大きな破裂音を立て、そして青竹が焼けるにおいがする。炎の熱さをほどで感じながら、やはり心が揺さぶられる思いがしました。きっと、子供たちも楽しく特別な思い出として心に刻まれるのだと思いました。

応援ありがとうございました。 (持久走大会)

1月25日(土)に持久走大会が行われました。持久走って、つらいですよね。だから、それに向かう姿を見れば、その子の性格がわかるなあといつも思います。ゴール付近で競り合う姿を見て「勝負へのこだわりがあるなあ。」とか、淡々と走る姿を見て「動じないなあ。」とか・・・だれが見てもわかりやすい!

ただ走っているだけなんですけど、応援していて楽しいのは、きっとその子の性格や思いが見える気がするからだろうと思います。心から「がんばれ、がんばれ」と思います。

保護者の皆様にも多数応援いただき、ありがとうございました。

※ご指摘がありました参観者の応援可能場所やルール等につきましては、学校で検討し、次年度以降、プリント等で明示させていただきます。



校長の申し出に、首を横に振る!

朝の該当指導をしていると、小さい体に多くの荷物を抱えて、歩いて登下校する一年生がいます。夏は、ランドセルを背負い、水筒をぶら下げ、水着や給食エプロンを手に持っています。あまりにつらそうなので、「どら、校長先生が持ってあげよう。」と水筒や水着を持ち、何度か一緒に登校したこともあります。

先日、その子が少し大きめの防寒着を着て、水筒を斜め掛けし、肩からずり落ちそうなランドセルを背負って雪の中を歩いてくるので、「どら、校長先生がランドセルを持ってあげよう。」と声をかけると、その子は、首を横に振るのです。もう一度、「じゃあ、水筒を持ってあげよう。」と言っても、また首を横に振るのです。私は、その子の体力と精神力の成長を感じ、荷物を持ってあげるかわりに、話をしながら一緒に登校しました。「暑い日も寒い日も、自分で歩いて登校したね。すごいと思う。」と言うと、黙って首を縦に振り、自分には妹が二人いること、一人の妹はおしゃべりがうるさいこと、自分は、将来〇〇(←聞き返しても、何のことか私にはわかりませんでした。)を作る仕事に就くことなどを話してくれました。その子のことを、首を縦に振るか横に振るかでかろうじて意思の確認ができる、おとなしい子供と思っていたのは、完全に私の間違いで、しっかりと自分の考えを持った一年生だと思いました。

学校は、子供の成長を促す場所でなければなりません。私の申し出に、首を横に振られたとき、「大人が成長を邪魔していないか?」と突き付けられたように感じました。その子の成長が楽しみです。